

■自治会対抗の松林地区大運動会（本宿自治会）■

第62回松林地区大運動会が10月に開催され、本宿自治会の成績は近年にない、総合順位「3位」でした。毎回13自治会の参加による運動会、今回は11自治会でした。

スポーツ競技は参加することに意義があると言いつつも、運動会終了後の反省会では次回は必ず「順位を上げよう」と目標を立て意気込むのですが、いざ種目選手を集めるのが一番頭を悩ませます。

回覧版で選手募集、電話でのアポイントメントでは比較的簡単な種目は引き受けてくれる方も多いのですが、年齢別リレー、男女二人三脚などの選手になるとそう簡単に引き受けてくれません。

『探す方も必死です。』直接の声掛けを行い、ようやく運動会の1ヶ月前に各種目選手が決まったものの設定した練習日に種目選手が集まらず、思うような練習ができませんでした。

去年は、総合6位でしたが、『今年も順位は期待できないと思いました。また、運動会当日に種目選手が参加していただけるか心配でした。』

そして運動会当日、種目選手はなんとか参加いただけただけで『ぶっつけ本番』で行うことになりました。

そんなメンバーがやってくれました。

ビックリです。得点種目の男女2人3脚（優勝）・男女キャッチボールリレー（3位）・年齢別リレー（男子決勝で敗退・女子決勝3位）・玉入れ（ベスト4で敗退）・みんなでジャンプ（2回とも飛んだ回数0回で敗退）・綱引き（一回戦で敗退）の結果『総合：3位 男女別順位：男子4位 女子準優勝』練習もほとんど行わず良い結果が得られたのは、選手の皆様が一生懸命がんばった成果と選手以外の参加者の応援があり良い結果が得られたと思います。

特に女性陣に乾杯、やや不調だった男性陣も乾杯、皆様お疲れ様でした。

今年も運動会の開催を案内します。選手希望、応援参加どちらでも1日楽しみましょう。

みんなの団結で『優勝』がそこまで来ているような気がしています。

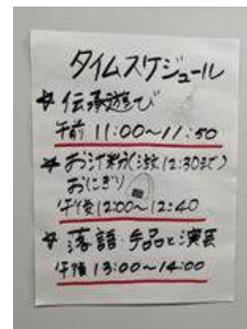


がんばった皆さんの笑顔

■ 2024年 年忘れ交流会（菱沼小和田自治会・広報体育部） ■

去る12月8日(日) 11時から、市営複合施設にて当自治会文化部企画及び主催の年忘れ交流会が開催されました。(多)世代間「交流」が基本テーマで、伝承遊びの体験、その後、お汁粉がふるまわれ、最後は横浜市職員落語愛好会の方々による落語、手品及び演芸と盛りだくさんで、参加者総数は50名を超え盛況でした。

複合施設という一つの場所を使って、さまざまな遊び場を設け観劇場を設営しなくてはなりません。それを企画実行された文化部の皆さんやご協力いただいた皆さん、ご苦労様でした。そしてもちろんこの企画に参画された横浜市職員落語愛好会のお二人、この交流会に参加された皆さんありがとうございました。



当日のタイムスケジュール



東海道五十三次のすごろく
サイコロは二つ使い、出た目の数の和だけ進みます。休みや戻りは有りませんが、上りの時だけは余分な分戻ります。(サイコロ一つで?) 足し算もありちょっとした知育です!



主としてコマを使ったお遊び(旧と新) いろいろなコマを手で回して遊びます(室内)。廊下ではベーゴマ改訂版で対決(寒くない?)。その向こうではけん玉に熱中する大人と子供。



百人一首(Hishikowa式) なにか字札が多くないですか? その通り。3つのカルタを使っています。だからその気になれば一つの上の句を聞いて、3枚の下句をゲットできない訳ではありません。



手品(みきていーさん) 横浜市職員落語研究会のみきていーさんによる演目



落語(空巢屋小どろさん) 横浜市職員落語研究会の小どろさんによる落語。しゅげむじゅげむ…を久しぶりに堪能?



演芸(傘回しと南京玉すだれ、湊屋架け橋さん) 横浜市職員落語研究会の架け橋さんによる演芸。実は手品をやった(みきていーさん)と同一人物。南京玉すだれは子供さんに結構人気でした。

来られたお子さん達にはお菓子セットをあげましたが、これも文化部の皆さんが買い出しして用意したものです。お汁粉担当のお二人は施設台所で奮闘、残りの方は各お遊びにアテンドと。。。ご苦労様でした。

面白かった! 楽しかった! と爺ちゃん、婆ちゃん、ご両親、お孫さんが喜んでいただけたら文化部の皆さんの苦労も報われたかと思えます。

■自治会長奮戦記（菱沼小和田自治会会長 田中茂）■

どっこい どっこの掛け声で分かる方は暁の祭典の常連さんです。

湘南茅ヶ崎の夏の到来を告げる浜降り祭、茅ヶ崎市と寒川町の神社から約40基の神輿が茅ヶ崎西浜海岸に集まり、神輿が海に入る姿（みそぎ）を見ることができます。

昭和53年に神奈川県が無形民俗文化財に指定され、かながわ祭りの50選に選ばれています。

浜降り祭りの起源については諸説あるみたいですが、江戸時代後期に幕府がまとめた「新編相模国風土記稿」によると鶴嶺八幡宮では寒川神社のお礼参りの古い時代から、心身の罪や穢れを清める「みそぎ」の神事を行うため毎年浜辺の渡御が行われたとあります。

両神社の伝承は古くから語り継がれ定着し明治9年（1876年）にここまで6月29日に行われてきた「みそぎ」神事を新暦の7月15日と定め、名称を浜降り祭りと呼ばれるようになりました。

このような伝統ある祭典に10数年前は海岸まで行き、見学した事はあったのですが、2年前に当会の評議委員となり、自治会長として参加することになりました。

参加と言っても大役で、まず服装は人生で初めて着るダボシャツ上下・半纏・地下足袋。

このいでたちで高張提灯を持ち、菱沼八王子神社旗、神輿を先導するという格式高く名誉ある仕事です。

神社集合時間は当日午前2時、宮立は2時半、ここでまた大役が。。。

お祝いの乾杯の音頭取り、そして出発の合図、両自治会長（菱沼自治会・菱沼小和田自治会）がそれぞれ高張提灯を持ち、神輿の担ぎ手の声も高らかにいざ目指すは海へ。

どっこい どっこい どっこい どっこい。

高張提灯持ちは6人が神酒所までそれぞれ交代で先導していきます。交通事情や時間の制限があるので神社から国道1号線まで先導し、神輿はトラックに載せて、関係者はバスにて134号線西浜海岸入口まで、そこから海までどっこい どっこい。

それぞれの神輿がこの時とばかりに上下左右壊れんばかりに揺さぶられ、海に向かってまっしぐら。海の中では数基の神輿がしぶきをあげて大暴れ。

やがて神事が行われる場所に集合し、セットする事朝の5時、約1時間の休憩（朝食）時間、そして40基前後の神輿が寒川神社のお祓いを受け順番に帰路に向かって最終発、どっこい、どっこい。

神社の宮入が12時半過ぎ、長い一日でした。

皆さーん、今年は海岸でお会いしましょう。どっこい どっこい。



これぞ、浜降り祭の絶好調



中央が田中会長

編集後記：この冬は寒さがことのほか厳しく、YU-ZUルーム近くの河津桜もつぼみの期間がことのほか長かったようです。そこを取り巻く公園ではいつも誰かが草花の手入れをしてくれています。誰に褒められるのでもなく、当たり前のように暖かい目で見守ってくれる姿に心打たれます。今回の記事でそのような地域活動の一端がお知らせできれば幸いです。

編集委員：香山隆、風岡学、二本木和久、菅野京子、飯田菊子、石川絵里、鈴木孝、相武辰昌